

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO1

実施月日	令和元年8月26日		
実施時間	14時00分～17時40分		
調査先	ロワジールホテル那覇及び航空自衛隊那覇基地		
調査所在	那覇市西3-2-1(ロワジールホテル那覇)・那覇市字当間301(航空自衛隊那覇基地)		
調査の目的	第14回九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会及び航空自衛隊那覇基地現地研修視察		
調査先担当者	九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会 会長 又吉清義(沖縄県議会)		
内容・結果等	◎ 第14回九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会		
	1 役員就任について		
	(1) 九州・沖縄防衛議員連盟連絡規約により、会長は総会開催地の県議会会員団体が会員の中から選任。		
	(2) 副会長、幹事長、監事は、会長が指名。		
	会長 又吉清義、副会長 山川 典二、幹事長 花城大輔、監事 山川典二		
	2 議案審議		
	(1) 第1号議案		
	平成30年度事業報告(案)及び決算(案)については、会計監査報告がなされ、原案通り可決。		
	(2) 第2号議案		
	令和元年度事業計画(案)及び収支予算(案)については、原案通り可決。		
	(3) 大会決議		
	大会決議(案)は原案通り了承。		
	3 次回開催県については、大分県で開催することで決定。		
	◎ 防衛講話 演題:「南西諸島を取り巻く安全保障環境」		
	講師 航空自衛隊南西航空方面隊司令官 空将 鈴木康彦氏		
	1 南西地域を取り巻く環境		
	(1) 東アジアの中心であり、那覇を中心に円を描くと1,500km圏内には香港、マニラ、ソウル、東京がある。		
	(2) 那覇を東京の位置に置き換えると東西1,000kmに東北、四国の一部を占める広大な海域がある。		
2 沖縄県の状況			
沖縄県面積2,281km <sup>2</sup> は全国44位(国土面積の0.6%)の広さである。米軍施設は1,850km <sup>2</sup> で70.28%を占めている。			
3 中国の行動			
(1) 一帯一路(現代版 万里の長城)政策			
(2) 拡大・増加する中国海空軍の航空活動			
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	旅費		29,370
	宿泊費		22,000
	合計		51,370

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。  
会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO2

内容・結果等	(3) 中国無人機の活動		
	(4) 中国空母「遼寧」による太平洋進出		
	5 航空自衛隊等の活動		
	(1) 領空侵犯等への緊急発進(年間400回を超える)		
	(2) 陸・海・空の自衛隊の配置		
	(3) 南西地域での南海トラフ対策		
	(4) 平成30年7月豪雨への災害派遣		
	(5) 平成30年北海道胆振地震の災害派遣		
	6 南西航空方面隊の任務		
	(1) 米軍・航空自衛隊の合同訓練		
	(2) 南西地域における日米共同運用		
	【まとめ・感想】		
	防衛議員連盟連絡協議会には、初めて参加したが近隣の佐世保市市議との広域連携の話題で大いに盛り上がった。また、オスプレイの訓練地との話しが浮上している大野原訓練場を持つ嬉野のことも話題となった。今後、観光面、道路整備、広域観光定期バスについても、いかに連携していくかが重要になってくる。		
	総会はすべて原案通り可決して閉会した。		
	鈴木司令官の講話「南西諸島を取り巻く安全保障環境」は、航空自衛隊南西航空方面隊の活動が広範囲に及び中国からの脅威に対応している様がよく理解できた。		
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先
旅費			
宿泊費			
合計			0

※ 裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に貼付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO3

実施月日	令和元年8月27日			
実施時間	9時45分～11時40分			
調査先	宜野湾市役所			
調査所在	宜野湾市野崇1丁目1番1号			
調査の目的	普天間基地の概要について			
調査先担当者	宜野湾市議会 東川上芳光事務局長 基地政策部基地渉外課吉村純課長、崎原邦子係長			
内容・結果等	1 宜野湾市長、宜野湾市市議会議長表敬訪問			
	(1) 米軍普天間基地の状況(市長説明)			
	① まちのど真ん中にある普天間飛行場は、戦後70年以上もの長期間、航空事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強いていることに加え、効率的なまちづくりを進める上での阻害要因となっている。			
	② 市街地に囲まれた普天間飛行場は、世界一危険であり、一刻も早い返還の必要性が示されるものの、政府と沖縄県は対立を続け、返還合意の原点である危険性除去と基地負担軽減は置き去りされ解決に向けた解決への道筋は依然として不透明な状況が続く。			
	③ 夜間訓練や長時間に及ぶ住宅地上空での旋回飛行並びに増加している外来機の飛来などは、危険性ととも騒音や地デジ受信障害など、日常的に市民生活に深刻な影響を及ぼしている。			
	④ 今後、普天間飛行場の返還を最優先に取り組み、あらゆる方策を講じ、宜野湾市民が強く望む普天間飛行場の一日も早い返還と、返還までの危険性の除去及び基地負担軽減の確実な実現を求める。			
	(2) 宜野湾市の概要(基地渉外課長説明)			
	① 宜野湾市は、沖縄県本島の中南部に位置し、交通の要所である。しかし普天間飛行場がまちの中心部に位置しているため、いびつな都市形成をせざるを得ず、市民生活・市財政に大きな影響を及ぼしている。また、普天間飛行場の周囲には、学校や公共施設など数多く存在し、市民は絶えず墜落の危険性と騒音被害な			
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
		旅費		
宿泊費				
合計			0	

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO4

内容・結果等	どの基地被害にさらされている。			
	② 宜野湾市の面積は 20km <sup>2</sup> 足らずで人口9万8千人余り、世帯数4万4千世帯と多くの市民が居住する。 市内の学校は普天間飛行場周辺に、小学校10校、中学校5校、高校4校がある。			
	③ 宜野湾市の人口密度は、基地の面積を除くと約7,061人/km <sup>2</sup> と東京都(約6,169人/km <sup>2</sup> )や大阪府(4,640人/km <sup>2</sup> )を上回るものとなっている。			
	3 数字で見る普天間飛行場			
	① 普天間飛行場の面積は475.9ha(東京ドーム約100個分)で街の中心街に位置し、市面積の約4分の1を占めている。			
	② 普天間飛行場の常駐機はオスプレイ24機など全部で58機である。			
	③ 所有形態、地主数、軍人数、従業員数は地主約3,700人、年間賃借料約74億5千万円、1人あたり200万円、軍人数3,200人、日本人従業員数213人と市内従業員数のわずか0.6%程度である。			
	【まとめ・感想】			
	普天間飛行場が街の中心にあり、近くには子ども達が通う小学校、中学校、高校が点在する環境の中で戦後70年間もの長きにわたり、航空機事故の危険性や騒音被害等に悩まされた市民の負担を目の当たりにした。			
	全面返還合意から23年経過した今なお、返還は実現せず解決への糸口さえ見いだせない宜野湾市民の気持はどの様なものか計り知れないものがある。一刻も早い返還への道筋を付けることを望みたい。			
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
		旅費		
宿泊費				
合計				

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO5

実施月日	令和元年8月27日		
実施時間	14時00分～16時00分		
調査先	名護市辺野古交流プラザ及びキャンプシュワブ(辺野古埋め立て地)ゲート前		
調査所在	名護市辺野古913番地10		
調査の目的	「辺野古埋め立て問題」について		
調査先担当者	名護市市議会議員 宮城安秀氏		
内容・結果等	1 普天間飛行場代替施設建設事業の概要説明		
	(1) 移設概要		
	① 普天間飛行場の3つの機能・役割のうち、1つ(オスプレイなどの運用機能)だけをキャンプ・シュワブに移転する。		
	② 代替施設は、基地の規模や配備機数など、沖縄の基地負担軽減に資するもの		
	③ 代替飛行場面積 普天間飛行場約481haの3分の1の約160ha(埋立面積)		
	④ 配備航空機 普天間飛行場(配備機数58機)より15機減		
	⑤ 滑走路長 普天間飛行場2,740メートル、代替施設1,800m(滑走路長1,200m、オーバーラン両側300m)		
	⑥ 代替施設から戦闘機を運用する計画は有していない。		
	(2) 移設先		
	キャンプ・シュワブ(名護市辺野古先地)		
	2 名護市・辺野古地区の概要		
	(1) 名護市の概要		
	市内人口は約63,000人、世帯数約30,000世帯、面積は210km <sup>2</sup> で沖縄県の総面積の約9%を占める。		
	(2) 辺野古地区の概要		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	旅費		
	宿泊費		
	合計		0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO6.

内容・結果等	人口約3,000人でキャンプ・シュワブに隣接する農漁村の地域である。		
	3 辺野古地区の状況(市議 宮城安秀氏談)		
	辺野古区は班が10班あり、協議する場を班1名ずつ及び区長推薦5名で構成している。辺野古沖への移設は賛否は取ったことはないが、7対3で容認派が多い状況である。その中でヘリパットを撤去するのが条件となっている。		
	4 名護市の状況(市議 宮城安秀氏談)		
	名護市民は辺野古への移設反対派が60~70%の模様である。		
	5 辺野古地区の地理的状況(市議 宮城安秀談)		
	名護市の市街地からは山を隔てた東部側の地域で、大半の人が住む市街地の市民は正直なところ、あまり実感がない地域である。地元が反対してしているニュアンスが強いが、辺野古地区としては受け入れを容認している。		
	【まとめ・感想】		
	沖縄の米軍普天間基地の移設先として、名護市辺野古が日米間で決定しているが、地元住民の受け入れ容認が多い状況と名護市中心部の反対派が多い状況が交錯し、果たしてどう判断すべきか迷いに迷ってしまった。		
	実際、辺野古基地反対活動に出くわしたが、反対派の意見も聞く機会があれば双方の話で判断できることがあるとの思いである。ややもすると片方の意見で判断することが多いが各々の意見・要望を聞き、判断する必要性を感じた。基地問題に無頓着であったが、今回の視察で現地の状況と報道のみで知ることが乖離あることを感じた。		
	また、現地に行き現実を知ることの大事さを痛感した。		
	上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先
旅費			
宿泊費			
合 計			

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること